

# 大橋球場最後の大会で親銀の6連覇達成は重工の記録に並ぶ

## 第44回長崎県軟式野球選手権大会

会期：平成6年11月22日(金)～24日(日)

会場：長崎市宮大橋球場、神ノ島仮設野球場

### 親和銀行(推薦)

鹿町バンビーズ(県北)	4	1	3	9
島原市役所(島原)	2	0	3	1
奈良尾クラブ(上五島)	0	0	3	1
小長井クラブ(北高)	4	4	1	1
松浦市役所(松浦)	8	2	1	1
田河東海(壱岐)	3	2	1	1
大村市役所(大村)	1	4	1	1
オランダ村ハウステンボス(西彼)	2	2	1	1

彼杵スラッガーズ(東彼)	0	3	1	5
J A 長崎経済連(長崎)	4	1	1	5
島クラブ(平戸)	0	4	1	5
富江クラブ(福江)	4	0	1	5
ソニー長崎(諫早)	0	1	1	5
エンゼルスクラブ(佐世保)	0	1	1	5
豊玉町野球部(対馬)	5	1	1	5
愛野町体協野球部(南高)	5	1	1	5

昭和26年5月に長崎市宮野球場(通称・大橋球場)が完成しその年の9月29日に第1回県郡市対抗野球大会が開催されて43年の歳月が過ぎた。狭い入場口を抜けて石段を降りると、左側に売店があり、右手にはトイレ。すぐ正面がバックスタンドでいろんな面で便利だった大橋球場が解体されることに

なり、大橋で最後となる選手権大会は県内16地区代表と前年優勝で推薦の親和銀行が参加。午前8時からの開会式に続いて大橋球場で二回戦5試合。翌年から代替地となる神ノ島仮設野球場で二回戦4試合の計9試合を第1日に行った。  
(平成6年11月23日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 相手のミスで 鹿町勝ち越す

【一回戦】◇大橋：第1試合◇ 振球犠盗失残併 1時間26分

鹿町バンビーズ	000 103 0	4	5	2	1	3	2	3	0
島原市役所	000 200 0	2	4	6	3	3	0	7	0

【三】小村  
【二】川尻健

【鹿町】打安点

⑥川尻秀	3	0	0
⑧川尻健	4	1	0
③川尻庄	3	0	0
⑤前田	3	2	2
②小村	3	2	1
⑦吉浦	3	0	0
⑨堤	2	0	0
①浜田	1	0	0
H4勢良	1	0	0
④1川尻武	3	0	0
			26 5 3

【評】一度は逆転された鹿町だったが、六回に川尻健の二塁打で反撃の

足がかりをつかみ、前田の一塁後方への安打に小村の中越え三塁打や、吉村の遊ゴロ併殺ミス(野選)により3点を挙げた。  
島原はエースの吉田信が後半へばったことが痛かったが、前半の再三にわたる逸機が命取り。

6回表、鹿町バンビーズ一死三塁吉浦の遊ゴロの間に、三走小村がヘッドスライディングで生還する



【島原】打安点

⑤森本	1	0	0
⑧島田	4	0	0
①吉田信	3	0	0
②北田	3	1	0
⑥柴田	3	1	0
③林田	0	0	0
⑦吉田修	2	0	1
④本多	3	2	0
⑨小林	1	0	0
H兼元	1	0	0
			21 4 1

## 安永(小長井ク)投打に活躍

【二回戦】◇大橋：第2試合◇ 振球犠盗失残併 1時間19分

小長井クラブ	000 004 0	4	5	3	1	2	0	1	1
奈良尾クラブ	000 000 0	0	5	2	1	0	0	4	0

【本】内田  
【二】安永、山脇

【評】六回の小長井クは二死一二塁に安永が中越え2点二塁打、続く内田は左翼場外に2ランして一挙4点。安永は投げても散發3安打完封した。  
奈良尾の左腕・平田も五回まで安永よりピッチング内容は良かったが、六回に球威が無くなったところを叩かれた。

【小長井】打安点

⑥鶴田	3	1	0
⑧岡村	1	0	0
①安永	3	2	2
②内田	3	1	2
⑦有田	3	0	0
⑤久保	3	0	0
③水口	2	0	0
④大木	3	0	0
⑨賀村	2	1	0
			23 5 4

【奈良尾】打安点

⑥西村	3	0	0
④中田	2	0	0
①平田	3	1	0
⑧築地	2	0	0
③山脇	2	1	0
⑦津田	3	0	0
⑨久住呂	2	1	0
②宮崎	2	0	0
⑤浜村	2	0	0
			21 3 0

## 親銀が見事な走塁

【二回戦】◇大橋：第3試合◇ 振球犠盗失残併 1時間24分

鹿町バンビーズ	000 000 1	1	5	2	0	0	0	3	0
親和銀行	000 301 X	4	0	4	1	1	1	6	0

【二】江口

【評】親和銀行は走塁に関しては見事だったが、打力という点ではいささかも足りなかった。四回に挙げた3点のうち2点は3四死球で得た一死満塁で米倉の遊ゴロバスターで益永に続き中田まで還ったもの。六回の追加点も江口の中前飛を野手が見失って安打となる間に一走の志賀が本塁を陥れたものだった。  
鹿町は最終回到江口が突然乱れた無死一二塁に内野陣にエラーが出て1点を返したのがやっと。

【鹿町】打安点

⑧川尻健	3	1	0
④勢良	3	0	0
③川尻庄	2	0	0
⑤前田	2	0	0
②小村	3	0	0
⑦吉浦	3	1	0
⑨堤	3	0	0
①川尻武	2	0	0
⑥川尻秀	2	0	0
			23 2 0

【親和】打安点

⑧丸本	4	1	0
④清水	3	0	0
⑨田口	2	1	0
③益永	2	0	0
⑦中田	2	0	0
⑤森山	1	0	0
H5酒井	1	0	0
⑥添田	2	0	0
②米倉	2	0	2
H志賀	1	1	0
①江口	3	3	2
			23 6 4

# 松浦市役所が6回に突き放す

【松浦市】打安点

⑥	荒木	3	1	0
⑬	浜崎	4	2	1
⑤	広川	2	0	0
5	加椎	0	0	1
⑦	中山	2	1	1
②	井戸	4	3	1
③	吉田	0	0	0
1	中野	2	0	0
H	辻田	1	1	0
1	末永	0	0	0
⑨	金子	4	1	2
⑧	松田	2	0	0
H4	榎並	1	1	0
④	山口	2	1	0
		27	11	6

【二回戦】◇大橋：第4試合◇ 振球犠盗失残併 1時間49分 (6回時間切れ)

松浦市役所	103 004	8	3	4	3	5	2	8	0
田河東海	100 002	3	2	8	1	2	3	11	0

【三】榎並 【二】浜崎、中山、井戸、荒木

【評】三回に金子の中前タイムリーなどで主導権を握った松浦が六回、代打榎並の左前イレギュラー三塁打を口火に長短6安打を集めて4点を加えて勝負を決めた。

田河東海は選手権初出場。7安打を放ったが、初回に川田の押し出し四球の1点と、六回無死満塁の反撃機に竹尾の死球と塩津の左前適時打で2点を返しただけ。五回に3連打しながら無得点に終わるなど詰めの甘さが目立った。

【田河】打安点

⑤	竹尾	3	1	1
⑥	橋口	4	1	0
⑧	高谷	4	1	0
④	塩津	1	1	1
③	山内	3	0	0
②	川田	2	0	1
①	山本	3	1	0
⑦	山本	1	0	0
⑨	石橋	0	0	0
H9	瀬口	2	2	0
		23	7	3

【大村市】打安点

⑥	三岳	4	1	0
②	山下	3	1	0
H	黒岩	1	1	0
①	浦辺	4	0	0
③	高浜	3	1	0
⑦	小川	3	1	0
⑤	松田	2	1	0
⑧	西村	2	0	0
④	坂野	2	1	0
H4	横田	1	0	0
⑨	浦道	2	0	0
H	古賀	1	0	0
		28	7	0

## 手堅い攻めのオランダ村

【二回戦】◇大橋：第5試合◇ 振球犠盗失残併 1時間26分

大村市役所	100 000 0	1	3	2	0	2	1	8	0
オランダ村	020 000 X	2	2	3	3	1	1	5	0

【三】乙須、辻 【二】黒岩、吉原

【評】立ち上がり1点のリードを許した初出場のオランダ村ハウステンボスは、二回に先頭乙須の三塁打を吉原の遊撃背後に落ちる安打でかえし同点。二盗後に手堅くバントを二つ決めて逆転し、これを尾崎が守り切った。

7年連続16回目出場の大村市役所は初回にバント安打を含む2安打と敵失で1点先取、滑り出しは良かったが、尾崎をいつでも打てると思っただけか粗い攻めで初回の1点に終わった。

【オランダ】打安点

⑤	辻	2	1	0
②	永井	1	0	0
①	尾崎	2	0	0
③	乙須	3	1	0
⑦	吉原	3	2	1
⑧	吉川	2	0	0
⑨	本川	2	0	1
④	縄本	2	1	0
⑥	田代	2	0	0
		19	5	2

【経済連】打安点

⑥	福田	4	0	0
⑧	野口	4	1	0
④	松富	3	1	0
⑤	佐藤	1	1	0
R5	岩崎	1	0	0
⑦	富永	3	0	0
7	田辺	0	0	0
⑨	白水	3	2	1
②	佐々野	3	1	0
③	中尾	3	0	0
①	松崎	2	0	0
1	佐藤純	1	1	0
		28	7	1

## 松崎が好投 JA長崎経済連 快勝

【二回戦】◇神ノ島：第1試合◇ 振球犠盗失残併 1時間40分

JA長崎経済連	102 000 0	3	2	1	0	3	1	5	0
彼杵スラッガーズ	000 000 0	0	6	2	1	0	6	5	0

【三】佐々野

【評】経済連が敵失につけ込むそのない攻撃で3点を奪い、守っては松崎一佐藤純のリレーで完封し、天皇杯全日本出場の実力を見せた。

初回の経済連は二死後に敵失出塁の松富が二盗。送球が逸れる間に三進し富永の三ゴロ失で労せず先制。三回にも敵失と白水の中前打で2点を追加した。エース松崎の五回まで毎回三振を奪う好投が光った。

2年連続二度目出場の彼杵スラッガーズは初戦で敗退した。

【彼杵】打安点

④	堤章	3	0	0
④5	後瀬	2	0	0
⑥2	堤浩	2	0	0
①	浦	3	0	0
⑧	福田	3	1	0
⑨	立山	3	1	0
②	俵坂	1	0	0
4	三坂	1	0	0
⑦	松山	2	0	0
H	山口	1	0	0
⑤6	林原	2	0	0
		23	2	0

## 富江クラブが粘る島クラブを振り切る

【二回戦】◇神ノ島：第2試合◇ 振球犠盗失残併 1時間35分

島クラブ	000 100 0	1	3	2	0	0	0	5	0
富江クラブ	200 020 X	4	5	7	1	1	1	6	1

【三】上野、川末、松崎 【二】松野尾

【評】島クは61年初出場で6回目、富江クは44年初出場で8回目の選手権だが、計8安打で4点挙げた富江クが粘る島クを振り切った。

富江は初回に上野、川口、川末の3連続長短打で2点を先制。五回には一死満塁から石山の中前打と尾崎のスライズで2点を追加した。

島も四回に石橋の右前適時打で1点を返し、六回にも無死一二塁と攻め立てたが後続が凡退。両チーム計11残塁と粗さが目立つ試合だった。

【島】打安点

②	藤田	3	1	0
⑤4	田中	1	0	0
③	増本	3	0	0
⑦	幸谷	3	0	0
⑥1	石橋	3	2	1
⑧	度嶋	2	0	0
⑨	小野	3	0	0
⑬	山見	2	0	0
H	松本	1	0	0
④	柳本	2	0	0
5	山野	1	0	0
		24	3	1

【富江】打安点

⑧	石山雄	3	1	0
⑦	上野	1	1	0
⑥	川口	2	2	1
②	川末	1	1	1
⑤	石山	3	1	1
④	尾崎	2	0	1
③	松野尾	3	1	0
⑨	松田	2	0	0
①	松崎	3	1	0
		20	8	4

【ソニー】打安点

⑤	川下	2	1	0
⑨	道上	3	0	0
⑧	増本	3	0	0
③	天野	3	1	0
⑦	里山	3	0	0
⑥	水本	3	1	0
②	西川	1	0	0
①	阿部	2	0	0
④	川田	2	0	0
		22	3	0

## エンジェルス 投手戦制す

【二回戦】◇神ノ島：第3試合◇ 振球犠盗失残併 1時間24分

ソニー長崎	000 000 0	0	2	2	0	1	0	3	1
エンゼルスクラブ	000 001 X	1	7	1	0	1	0	5	0

【評】阿部、南田の両エースによる息詰まる投手戦はエンジェルスがワン・チャンスをものにして1-0で競り勝った。

均衡が破れたのは六回。エンジェルスは二死二、三塁と初めて得点機の場合で代打の池田健は一塁後方への打球。これをミットに当てたが落球する内野安打で三走の田中一が還り決勝点となった。

【エンジェルス】打安点

⑥	大久保	3	0	0
④	田中一	3	1	0
⑦	大野	2	1	0
③	浜田	3	1	0
⑧	網田	2	0	0
H8	池田健	1	1	1
⑤	池田純	3	0	0
⑨	田中義	2	0	0
①	南田	2	1	0
②	清水	2	1	0
		23	6	1

【愛野町】打安点

⑥	大津	2	0	0
④	中尾	1	1	0
②	田中義	3	2	0
③	田中孝	3	0	0
⑧	木戸	2	1	2
①	溝上	1	0	0
1	川岡	2	0	0
⑨	田中宏	3	1	2
9	坂上	0	0	0
⑤	橋本	2	0	0
5	吉岡	1	1	0
⑦	佐藤	1	1	0
7	萩	1	0	1
		22	7	5

## 6回に猛攻 愛野が逆転

【二回戦】◇神ノ島:第4試合◇ 振球犠盗失残併 1時間35分

愛野町体協	000 005	5	1	4	2	1	1	4	1
豊玉町野球部	010 000	1	2	4	2	1	1	4	1

(6回時間切れ) 【三】齊藤 【二】木戸、田中宏

【評】愛野町体協野球部が六回に打者一巡の猛攻で大量5点を奪い逆転勝ちした。

先制したのは豊玉町野球部。二回一死一三塁から中庭がしっかりとスクイズを決めて1点を奪った。豊玉のエース御手洗に五回まで3安打に抑えられていた愛野だったが、六回に打線が爆発。木戸、田中宏の連続適時打に萩の犠飛などで5点を挙げ試合をひっくり返した。豊玉町野球部は選手権初出場だった。

【豊玉町】打安点

⑥	村井	2	0	0
①	御手洗	3	0	0
⑤	吉村	3	0	0
⑦	増田	2	1	0
②	齊藤	2	1	0
⑨	阿比留	2	0	0
③	中島	1	0	0
⑧	中庭	1	0	1
4	平井	0	0	0
④	8田中	1	0	0
		17	2	1

大会第2日は大橋球場と神ノ島仮設野球場で準々決勝と準決勝の計6試合があった。大会2日目に二つの会場を使用して準決勝まで行なうのは初めての試み。第1日に大橋会場で勝ち上がった4チームが第2日は神ノ島会場で準々決勝と準決勝を行なう画期的な方式

で、最後となる大橋球場でプレーをしたのは参加17チーム中の13チームで、所々にハゲ目が見える外野芝生や、年季の入った小さなスコアボード、錆びや補修の後が残る金網フェンスを懐かしみながら、試合を楽しんだ。

【小長井】打安点

⑧	鶴田	3	1	0
⑥	岡村	3	0	0
①	安永	3	1	0
②	内田	3	0	0
⑦	有田	3	1	0
⑤	久保	3	0	0
⑨	賀村	2	0	0
③	水口	2	1	0
①	大木	2	0	0
		24	4	0

## 散発4安打 小長井ク涙

【準々決勝】◇神ノ島:第1試合 振球犠盗失残併 1時間21分

小長井クラブ	000 000 0	0	5	0	0	1	1	3	0
親和銀行	003 000 X	3	2	3	1	2	0	5	1

【評】親銀が三回に集中打で3点を奪い、小長井の挑戦を退けた。三回の親銀は二死三塁に田口が左前適時打。益永四球の後に中田と森山が連続タイムリーして3点を挙げた。親銀の先発荒金は、変化球が冴え無四球で完封した。

小長井クの安永も四回以降、直球主体の投球に切り替えて立ち直ったが、打線が散発4安打に終わり反撃の糸口がつかめず、5年ぶり4度目の選手権は終わった。

【親和】打安点

⑧	丸本	2	0	0
④	清水	2	0	0
⑨	7田口	2	1	1
③	益永	2	0	0
⑦	中田	3	2	1
9	北田	0	0	0
⑤	森山	3	1	1
⑥	添田	3	1	0
②	米倉	3	0	0
①	荒金	2	0	0
		22	5	3

【松浦市】打安点

⑥	荒木	2	1	1
③	吉田	3	0	0
⑨	金子	3	0	0
⑦	中山	3	0	0
②	井戸	3	0	0
⑤	松永	2	0	0
H	加椎	1	0	0
⑧	松田	2	1	0
④	山口	2	0	0
①	中野	1	0	0
1	広川	0	0	0
		22	2	1

## 松浦市役所、逆転もつかの間

【準々決勝】◇神ノ島:第2試合 振球犠盗失残併 1時間22分

松浦市役所	002 000 0	2	6	0	2	3	3	1	1
オランダ村	011 002 X	4	2	1	1	0	2	4	0

【評】1点をリードされたオランダ村ハウステンボスは三回に辻と乙須の2安打で試合を振り出しに戻す。さらに六回には相手のエラーや、吉原と吉川の連打で2点を奪い、4-2と松浦市役所を突き放した。

1点を先制された三回表の松浦は、先頭松田の右翼線二塁打に、相手守備陣の乱れから2点を奪って逆転したが、その後はオランダ村の尾崎にヒット1本に抑えられ追加点を奪えず、5年ぶり4回目の選手権も1勝どまりで通算4勝4敗の五分。

オランダ村ハウステンボスは、初出場でベスト4進出を決めた。

【オランダ】打安点

⑤	辻	3	1	0
②	永井	3	0	0
①	尾崎	2	0	0
③	乙須	3	1	1
⑦	吉原	3	2	0
⑧	吉川	2	1	1
④	縄本	3	0	0
R4	楠本	0	0	0
⑨	古賀	3	1	1
⑥	田代	2	0	0
		24	6	3

【富江】打安点

⑧石山雄	3	0	0	
⑦上野	3	1	0	
⑥川口	3	0	0	
②川末	3	0	0	
⑤石山博	3	0	0	
④尾崎	2	0	0	
③松尾野	2	0	0	
⑨松田	2	1	0	
①松崎	2	0	0	
		23	2	0

# 富江クラブの打線沈黙

【準々決勝】◇大橋:第1試合 振球犠盗失残併 1時間28分

富江クラブ	000	000	0	0	5	0	0	1	1	2	0
JA長崎経済連	000	400	X	4	2	3	1	1	0	8	0

【評】押し気味に試合を進めながら得点を挙げられなかった経済連だったが、四回一死後に富永、岩崎が連打。早川のバントも安打で満塁。二死後に福田と松野の長短適時打で大量の4点を挙げた。

投げては監督でもあるベテラン早川が立ち上がり1安打を許しただけで佐藤純にリレー、完封した。

富江クラブは頼みの松崎が連投の疲れから後半にタマの切れがなくなった。また前日の島クラブ戦で9安打の打線も2安打のみで初のベスト4進出もかなわなかった。

【経済連】打安点

⑥福田	3	1	2	
④松野	3	2	2	
②佐々野	3	1	0	
③佐藤公	3	1	0	
⑨白水	3	0	0	
⑦富永	3	1	0	
⑤岩崎	2	2	0	
①早川	2	1	0	
H中尾	1	0	0	
1佐藤純	0	0	0	
⑧田辺	3	1	0	
		26	10	4

## エンジェルスクラブの守備乱れる

【準々決勝】◇大橋:第2試合 振球犠盗失残併 1時間48分

エンジェルスクラブ	120	002	0	5	4	3	3	2	1	4	1
愛野町体協野球部	000	010	0	1	5	2	1	2	5	6	1

【評】エンジェルスの守備の乱れが目立った試合だった。5失点のうち二回の2点は先発の清水が佐藤、溝上、大津に長短打されたもので仕方ないとしても、初回は捕手の二塁悪送球による1点。六回の2点は無死一二塁で投手が二塁牽制悪送球。これを中堅手が後逸して一走にも本塁を陥れられたものだった。

打線も愛野町体協と同数の6安打を記録したが、五回に池田健、清水の連打と南田のバントで得た一死二三塁の反撃機も大久保の三遊間安打で1点を返しただけ。だが3年ぶり3回目の出場でソニー長崎を封じて選手権初勝利を挙げた。

【愛野町】打安点

⑥大津	4	2	1	
④中尾	2	0	0	
H森本	1	0	0	
②田中義	4	1	0	
③田中孝	1	0	0	
⑧萩	2	0	0	
⑨田中宏	3	0	0	
⑦4佐藤	3	2	0	
⑤橋本	1	0	0	
5吉岡	0	0	0	
①溝上	3	1	1	
		24	6	2

【エンジェ】打安点

⑥大久保	4	1	1	
④田中一	3	0	0	
②吉居	3	0	0	
③浜田	2	1	0	
H池田純	1	0	0	
R9田中義	0	0	0	
⑧網田	3	1	0	
⑦池田健	3	1	0	
①93清水	3	1	0	
⑨古瀬	0	0	0	
1南田	1	0	0	
⑤三ヶ島	0	0	0	
H5大野	2	1	0	
		25	6	1

【オランダ】打安点

⑤辻	3	1	0	
②永井	3	0	0	
⑦吉原	3	0	0	
③乙須	3	1	0	
①尾崎	2	0	0	
⑧吉川	2	0	0	
④縄本	2	0	0	
4楠本	0	0	0	
⑨古賀	2	0	0	
⑥田代	2	1	0	
		22	3	0

## 親銀、6連覇に王手 ハウステンボス及ばず

【準決勝】◇神ノ島:第3試合 振球犠盗失残併 1時間11分

オランダ村ハウステンボス	000	000	1	1	8	0	0	0	2	0	1
親和銀行	001	002	X	3	2	3	2	6	0	5	0

【評】親銀は三回二死二塁から田口の平凡な二飛が落球の間に1点を拾った。さらに六回は二死後に得意の足を絡めた攻撃。中前打の中田に代わった北田が二、三盗して添田の左前タイムリーと、重盗が捕手悪送球を誘い計2点を挙げた。

親銀の井内は伸びのあるストレートとスローカーブでオランダ村打線をほんろう。オランダ村は8三振を奪われ最終の七回に1点返すのがやっとだったが、選手権初場でベスト4入りと健闘した。

【親和】打安点

⑧丸本	2	2	0	
④清水	2	0	0	
⑨7田口	3	0	0	
③益永	3	0	0	
⑦中田	2	1	0	
R9北田	0	0	0	
⑤森山	1	0	0	
⑥添田	3	1	1	
②米倉	3	0	0	
①井内	2	1	0	
		21	5	1

## 経済連、完封勝ち 愛野町体協 エース降板響く

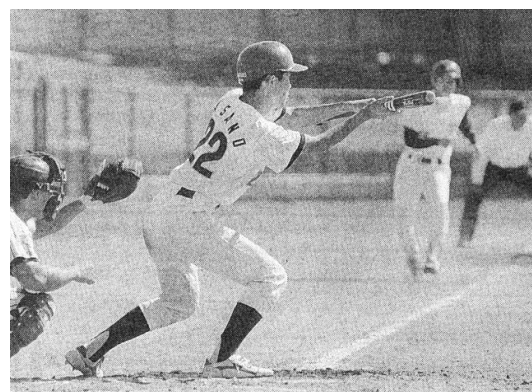
【準決勝】◇大橋:第3試合 振球犠盗失残併 1時間42分

JA長崎経済連	101	001	1	4	0	2	2	4	0	5	0
愛野町体協	000	000	0	0	9	0	0	0	1	2	1

【評】立ち上がり佐々野の左前タイムリーで1点先生した経済連は、三回一死三塁で佐々野がスクイズを決め(写真)、六回は佐々野のソロ本塁打。七回には田辺が安打し二盗後に松富の左適時打で加点した。

愛野町はエースの左腕・溝上が前試合の半ばに指のツメを割ったのが思わしくなく二回で降板したのも響いたが、打線も2二塁打を松崎から奪ったものの9三振を喫する荒っぽいバッティングで完封敗戦したが3年連続3回目の出場で、2年連続のベスト4入りは賞賛もの。

◇個人のテーブルは次ページに掲載◇



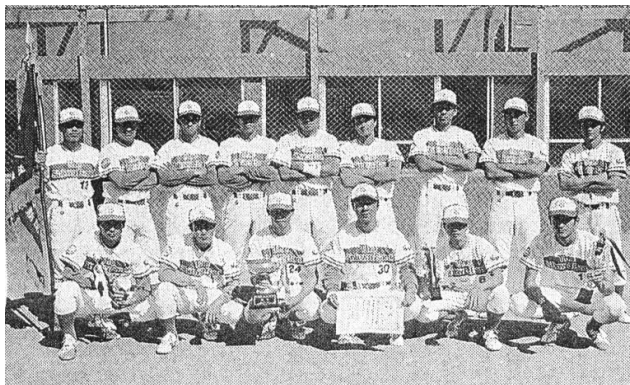
3回表経済連一死一三塁に佐々野がスクイズを決め2点目。三走は松崎

【経済連】打安点

⑧	田 辺	2	1	0
④	松 富	4	2	1
②	佐々野	3	2	3
⑤	佐藤公	2	0	0
⑨	白 水	3	1	0
⑦	富 永	3	2	0
⑥	岩 崎	3	0	0
③	中 尾	3	0	0
①	松 崎	3	1	0
		26	9	4

【愛野町】打安点

⑥	大 津	3	0	0
④	中 尾	3	0	0
②	田中義	3	0	0
③	田中孝	3	1	0
⑧	萩	1	1	0
⑧	木 戸	2	0	0
⑨	田中宏	2	0	0
⑦	佐藤	2	0	0
⑤	橋 本	2	0	0
①	溝 上	0	0	0
1	川 岡	2	0	0
		23	2	0



6年連続12度目の優勝を果たした親和銀行野球部

【表彰選手】

- ◇最優秀選手賞 丸本 優一(親)
- ◇最優秀投手賞 江口 正敏(親)
- ◇打 撃 賞 丸本 優一(親)
- ◇敢 闘 賞 佐々野忠信(経)

# 親和銀行 大会タイ記録の6連覇 12度目のV

【親 和】打安点

⑧	丸 本	4	3	1
④	清 水	2	0	0
⑨	北 田	2	0	0
③	益 永	4	2	2
⑦	中 田	4	2	1
7	田 口	0	0	0
⑤	森 山	2	0	1
⑥	添 田	4	2	0
②	米 倉	4	1	1
①	江 口	2	0	0
1	荒 金	1	1	1
H	志 賀	1	0	0
1	井 内	0	0	0
		30	11	7

## 県経済連を圧倒 11安打 9得点 足絡め打線にリズム

【決 勝】 2時間10分 振球犠盗失残併

親 和 銀 行	202 320 0	9	4	4	2	2	2	5	0	(7回コールド)
JA長崎経済連	000 001 0	1	3	4	0	1	3	7	0	【二】丸本、中田

【評】注目の対決は親和銀行のワンサイドゲームに終わり、決勝戦としては味気ないものになった。

その要因は経済連のエース松崎の不調と守備陣の乱れによる。親銀は一回に先頭の丸本が遊撃内野安打、清水のバントは二封されたが北田が四球で一二塁。二死後中田の当りは二塁への平凡なゴロ。これが大きく跳ね上がって清水が生還。さらに一三塁から二盗を企て塁間に挟まれる間に北田が還って2点を挙げた。

三回には一死から丸本が左越え二塁打しバントで三進。北田が四球(二盗)の二三塁に益永が中前2点打。

その後は経済連の守備の乱れもあって点差は開くばかり。経済連は親銀先発・江口の制球難に乗じて得点圏に走者を進めるがここの一発が出ず得点に結びつかない。六回に二番手荒金から先頭の佐藤公が四球を選んだのをきっかけに、珍しい親銀守備陣の連失で1点返したのがやっと…。



4回一死三塁、親銀・丸本の中前打で三走・江口が還り7点目

◆親和銀行・川崎浩監督の話

エラーによる失点もあったが積極的に足を絡め、まずまずの野球ができた。当分、新戦力が見込めないで守備力に重点をおいて、今のチームのレベルアップを図りたい。最大の目標は3年連続で出場を逃がしている国体。来シーズンはうちのチームがリードして県全体の競技力を上げていきたい。

【親和銀行6連覇の戦績】

第39回(H元年)	第40回(H2年)	第41回(H3年)	第42回(H4年)	第43回(H5年)	第44回(H6年)
8-1 ソニー長崎	5-0 美津島マージャルス	11-0 東彼ラグーズ	1-0 愛野町体協	5-0 富江クラブ	4-1 鹿町バレーズ
3-1 南串野球部	6-0 上五島ブローズ	2-1 三菱重工長崎	8-0 御厨クラブ	5-0 彼杵スラッカーズ	3-0 小長井クラブ
2-0 長崎県共済連	6-0 千住スポーツクラブ	3-1 轟クラブ	1-0 大村市役所	2-0 ソニー長崎	3-1 オランダ村ハウスホース
1-0 長崎県経済連	1-0 大村市役所	3-0 中興化成工業	1-0 JA長崎経済連	3-1 生月体協	9-1 JA長崎経済連

【三菱重工長崎6連覇の戦績】

第17回(S42年)	第18回(S43年)	第19回(S44年)	第20回(S45年)	第21回(S46年)	第22回(S47年)
9-2 平戸クラブ	4-0 盟友クラブ	1-0 諫早クラブ	4-0 池島鋳業所	10-0 池島鋳業所	1-0 長崎無線局
2-0 東芝炉材川棚	3-0 諫早クラブ	12-0 富江クラブ	3-0 全厳原	3-0 壱岐スターズ	2-0 親和会キング
1-0 長崎県庁	7-0 親和銀行	4-0 有明クラブ	2-0 神戸発動機	2-1 親和銀行	8-7 長崎県庁
		3-0 長崎県庁	6-0 福江球友会	4-1 長崎県庁	5-1 松早石油店

平成6年に開催されたその他の競技会の戦績① (一般のみ)

第17回九州選手権県予選 4.9～佐世保

ソニー長崎(諫早)	4
J A長崎経済連(長崎)	1 8
轟クラブ(北高)	1 0
親和銀行(佐世保)	3 3
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)	0
大村市役所(大村)	2
生月体協(県北)	7 7
J A長崎共済連(長崎)	14 0
南串野球部(南高)	1 5
三菱重工長崎(長崎)	4

※この年から一般チームの昇格と降格が定義付けられ、高松宮賜杯全国と東西日本大会で優勝、準優勝したチームは次年度に昇格しなければならない規定ができた。従来は出場したら翌年度昇格であった。また昇格したチームが降格する場合は昇格年度から2年経過して支部長が認めたものに限ることになりこの際に県A級チームの絞込みがあり上記の10チームがA級登録となった。

第16回西日本1部県予選 4.9～島原

愛野町体協野球部(南高)	9
島原市役所(島原)	5 1
小長井クラブ(北高)	2 0
美津島マージャルズ(対馬)	0
松浦市役所(松浦)	7
大瀬戸クラブ(西彼)	0 4
波佐見倶楽部(東彼)	7 5
富江クラブ(福江)	6
ファイヤーバード(上五島)	3
諫早信用金庫(諫早)	9 1
中村クラブ(大村)	2 0
全江迎(県北)	0
平戸クラブ(平戸)	1
佐世保市役所(佐世保)	0 0
西部ガス(長崎)	2

西日本(1部)大会 5.27～・和歌山県

- 【二】 2-1 オール赤木(島根)
- 【準々】 4-1 横山建設(高知)
- 【準】 5-3 ひらまつ病院クラブ(佐賀)
- 【決】 2-3 直方東芝(福岡)

第16回西日本2部県予選 4.9～大村

ホワイトスターズ(東彼)	1
浜屋百貨店(長崎)	4 4
大宰府クラブ(諫早)	8 2
九電有川(上五島)	0
ホーク(大村)	2
国見クラブ(南高)	9 3
田河東海(老岐)	4
福島クラブ(県北)	2
飯盛クラブ(北高)	0 0
佐世保クラブ(佐世保)	10 7
安中クラブ(島原)	10
松浦野球部(松浦)	4
長崎オランダ村(西彼)	5 7
センチュリー21(福江)	4

西日本(2部)大会 5.13～・高知県

- 【一】 2-3 高知パーフェクト(高知) =優勝

第49回国体(成年1)予選 5.1～佐世保

親和銀行	1-0	J A長崎経済連
"	4-0	"

国体成年1部予選は親和銀行と前年度天皇杯出場の経済連が3戦2勝方式で

第49回国体(成年2)予選 5.4～長崎

鹿町バンビーズ(県北)	0
小長井クラブ(北高)	8 2
安中クラブ(島原)	7
三菱重工長崎(長崎)	7
豊玉町野球部(対馬)	0
佐世保クラブ(佐世保)	4
福江球友会(福江)	3 3
中村クラブ(大村)	6 2
中興化成工業(松浦)	2
島クラブ(平戸)	3
上対馬ライオンズ(対馬)	2 1
愛野町体協(南高)	7
J A長崎共済連(長崎)	12 1
上五島ブローズ(上五島)	0
ソニー長崎(諫早)	3
佐世保市水道局(佐世保)	2 7
大瀬戸クラブ(西彼)	0 0
波佐見鴻ノ巣クラブ(東彼)	4

国体成年2部予選は一次でベスト4を決定し、二次は決勝リーグ戦で九州国体への代表チームを決定する。

第49回国体(成年2)二次 5.21～諫早

三菱重工長崎	4-1	佐世保クラブ
ソニー長崎	4-3	J A長崎共済連
三菱重工長崎	8-1	J A長崎共済連
ソニー長崎	6-0	佐世保クラブ
J A長崎共済連	6-2	佐世保クラブ
三菱重工長崎	3-0	ソニー長崎

☆三菱重工長崎が県代表権獲得☆

第49回国体(壮年)予選 5.14～長崎

メンフッズ福江(福江)	7
壮年諫早クラブ(諫早)	3 0
飯盛壮年クラブ(北高)	1
上対馬北斗クラブ(対馬)	4
松浦壮年クラブ(松浦)	1
シゲマツクラブ(長崎)	0
佐世保壮年クラブ(佐世保)	7 2
波佐見名球会(東彼)	0
北松壮年クラブ(県北)	2
上五島迷球会(上五島)	7

九州ミニ国体 8.26～・佐賀

(3部門とも代表決定戦で敗退)

- (成年1) 親和銀行 6-3 沖縄
- (成年2) 三菱重工長崎 3-0 鹿児島
- (壮年) メンフッズ福江 5-0 宮崎

- 【代】 0-1 宮崎(田中病院)
- 【代】 熊本(鶴屋百貨店)
- 【代】 大分(国見狸)

第49回愛知国体

- (成年1部) 宮崎(0勝)、大分(0勝)
- (成年2部) 福岡(1勝)、熊本(0勝)
- (壮年の部) 大分(0勝)、佐賀(0勝)

平成6年に開催されたその他の競技会の戦績② (一般のみ)

天皇賜杯第49回県予選 6.25～佐世保

大村市役所(大村)	1
千々石町野球部(南高)	1 6
轟クラブ(北高)	3
巖原ワイズ(対馬)	4
佐世保クラブ(佐世保)	6
J A長崎共済連(長崎)	6
島原市役所(島原)	1 7
富江クラブ(福江)	4 2
オランダ村(西彼)	1
ソニー長崎(諫早)	5
中興化成工業(松浦)	3 3
海自造修所(佐世保)	2
生月体協(県北)	4
美津島マーシャルズ(対馬)	3
J A長崎経済連(長崎)	1
平戸クラブ(平戸)	0 2
奈良尾クラブ(上五島)	3 1
波佐見鴻巣クラブ(東彼)	2

高松宮賜杯第38回1部 6.4～松浦

島クラブ(平戸)	6
鹿町バンビーズ(県北)	5 5
彼杵スラッガーズ(東彼)	5 7
千住スポーツ店クラブ(諫早)	1
大瀬戸クラブ(西彼)	0
西部ガス(長崎)	8 4
上五島クラブ(上五島)	6
松浦市役所(松浦)	10
佐世保市水道局(佐世保)	1 9
小長井クラブ(北高)	4 5
美津島ポパイ(対馬)	1
小浜クラブ(南高)	1
中村クラブ(大村)	0 6
福江ビクトリー(福江)	3

高松宮賜杯第38回2部 6.4～飯盛

九電大村発電所(大村)	1
親銀長崎クラブ(長崎)	8 4
エンジェルスクラブ(佐世保)	6 7
安中クラブ(島原)	3
松浦野球部(松浦)	1
福島クラブ(県北)	7 2
巖原レパーズ(対馬)	3 4
岐宿クラブ(福江)	0
浜ノ浦クラブ(上五島)	3
S N A P(諫早)	4 6
飯盛クラブ(北高)	8 1
有明町役場(南高)	1
松島炭鉱池島鉱(西彼)	3
波佐見イトスターズ(東彼)	4 7
田河東海(壱岐)	1

九州ブロック(宮崎)で勝利

九州ブロック(佐賀)で敗退

天皇賜杯第49回全日本 9.15～宮崎県

【一】 1-2 J Aあきた経済連(秋田)

高松宮賜杯全日本(1部) 8.19～熊本県

【一】 3-2 青森県庁(青森)

【二】 1-7 オール篠崎(東京)

第46回県民体育大会 11.12～諫早

(諫早)ソニー長崎	1
(北松)田平町	0 1
(西彼)西海棒球队	1 0
(福江)増山建設	2
(北高)小長井クラブ	0
(南高)千々石町野球部	3 0
(南松)富江クラブ	1 1
(大村)中村クラブ	0
(長崎)三菱重工長崎	3
(平戸)平戸クラブ	2 2
(東彼)波佐見倶楽部	2 1
(松浦)中興化成工業	1
(佐世保)西海クラブ	2
(対馬)上対馬ライオンズ	3 3
(壱岐)郷ノ浦ヤンキース	2 1
(島原)安中クラブ	9

第2回県壮年大会 10.29～吉井

轟壮年クラブ(北高)	0
佐世保西海クラブ(佐世保)	9 5
大村シティクラブ(大村)	0
波佐見名球会(東彼)	2
シゲマツクラブ(長崎)	9
おじんクラブ(平戸)	1
松浦壮年クラブ(松浦)	4
北松壮年クラブ(県北)	5
上対馬北斗クラブ(対馬)	2 4
壮年諫早クラブ(諫早)	1

## ボールと用具の変遷について

日本で初めて野球が行なわれたのは明治6(1873)年であるといわれているが、軟式野球ボールは神戸市の東洋ゴム工業株式会社に製造され大正8年7月に京都市で開催された少年野球大会で使用したのが始まりである。この頃は少年を中心とした軟式野球であった。

軟式野球ボールが開発され、各ゴム会社がボールを製造するようになったが、大陸で事変が勃発して戦時体制になると物資不足で、ゴムも例外でなくて次第に製造が少なくなり昭和18年10月には軟式野球ボールの製造が出来なくなってしまう。第2次大戦中にいろいろとあったボールの意匠が統一されたのが『菊型ボール』であり、昭和25年まで製造された。

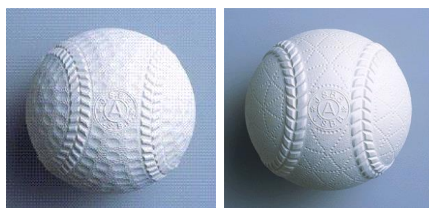
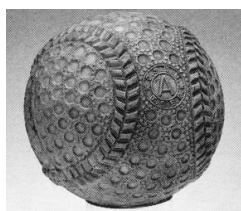
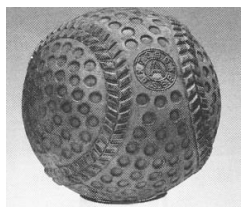
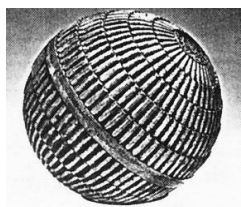
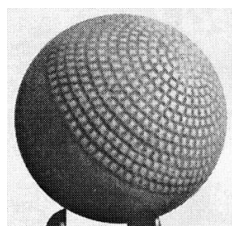
昭和21年8月に全日本軟式野球連盟が結成されて、ボール意匠の科学的な研究を重ねた結果、25年に新意匠のボールを制定し連盟公認球としたのが『ディンプル型ボール』である。そしてボール製造の6社と契約し検定料制度を採用した。

このディンプル型ボールは35年まで使用されたが、さらに改良が進んで、『ディンプル型ボール(改良型2号)』として新意匠ボールが制定された。44年に一部の改良が加えられた。このディンプル型ボールは、一般用をL号、中学用をA号と称し、当時に流行した準硬式球をB号と呼んでいた。

そして現在の呼称(一般A、中学B、準硬式H)に変わったのが昭和60年で、それに伴ってディンプル(窪み)の形も丸から楕円形になり、空気抵抗が少なく、ボールの飛距離も増すように改良された。(下写真左)

価格は旧ディンプル型よりも50円アップして、A号450円、B号430円C号(学童)390円。だが後にA号は、560円になった。

ディンプル型ボールが昭和25年から使用されて55年後の平成18年から全ての大会で使用するようになったのが上写真右の新型ボールである。価格はA号で600円。



ボールメーカーや全軟連のテストによれば、従来のボールより飛距離で10%アップしたとのこと。だけどあくまでも『芯でとらえて…』のことである。

軟式野球の試合に『デット・ボール』が適用されたのは昭和44(1969)年から。それまでのボールはA号～C号(B号は準硬式球)で、A号は中学生以上の使用球であった。その3種類にL号(A号より直径が2mm大)を加えて、一般と高校生が使用したのが44年からで、軟式野球のルールにも『デット・ボール』が取り入れられることになった。

金属バットが連盟公認(JSBB入り)に限り使用が認められたのは昭和46年。長崎国体の2年後からである。高校野球の硬式で金属バットの使用が認められたのは昭和49年の春大会からで、酒井圭一投手(長崎海星→ヤクルト)が海星に入学した年である。

また、JSBB公認でビヨンドバットがミズノから発売されたのは平成14年9月で、今やチームのバットケースに1本は入っているだろうビッグセラーとなった。

捕手の装具に関しては多年、マスクのみであったが昭和61年にレガードの装着を義務付け、平成3年には捕手用ヘルメット、14年からはプロテクターも着用しなければならなくなった。

打者及び走者用ヘルメットの着用は、昭和61年に少年および学童に義務付けし、一般においては62年度を猶予期間として63年から着用を義務付けた。

さらに平成3年には、次打者も着用しなければならなくなり、4年から学童のみの着用であったベースコーチのヘルメットも一般にも20年に義務付けられた。

野球の試合は9人いればチーム編成できるが、全軟連規程では、『大会でベンチに入れる人員は、監督を含む選手20名以内と、…』(一般)となっており、競技には『…10名以上参加しなければならない。…』の、細則もある。この10名以上となったのは平成6年からで、それ以前は13名以上が、ベンチ入りしなければならなかった。

ユニフォームについても色々の変遷があった。ユニフォームがニット素材に変わってきたのは昭和40年代後半。それに伴って60年前後からカラー化が進んで来てツートンも出回ったが、赤や黄、黒などのユニフォームが認められない時期もあった。それが緩和されたのは平成6年あたりからだが、ユニフォームズボンに関しては、『すそ幅の広いストレートタイプのパンツは着用を禁止』されている。(平成22年現在)